

Noam Wiesenberg Trio

現代ニューヨーク・ジャズ・シーンを支えるベーシスト Noam Wisenberg。彼の作品にはシャイ・マエストロやイマニュエル・ウilkensなど世界最高峰のプレーヤーが参加し、繊細な感性が生み出す極めて密度の濃い最高の現代ジャズ作品として評価され、唯一無二の作編曲家 / ベーシストとして現代ジャズの最先端をゆくニューヨークの音を創り出している。その彼が率いるベネズエラ出身でグラミー賞を受賞し鮮烈なピアノを披露して昨今のニューヨーク・ジャズシーンで大きな話題を呼んでいるピアニスト Gabriel Chakarji、そして初来日が待望され艶やかなトランペットの響きと叙情味にあふれたプレイで売り出し中の Philip Dizack によるトリオ、大きな話題を呼ぶことでしょう。

[Profile]

Noam Wiesenberg ノーム・ワインゼンバーグ : bass



父親がピアニストであり音楽教師という家庭で、早くから音楽に親しみ6歳頃からクラシック音楽のチェロを習い始めたが、父親のアドバイスでクラシックだけではなくビートルズ、スティーヴィー・ワンダー、デューク・エリントン、パコ・デ・ルシア、世界中の様々な民族音楽といったあらゆる種類の音楽を学ぶ。

20歳でコントラバスに転向しプログレッシヴ・メタルバンドの Orphaned Land アルバム『Mabool』にはチェリストとして参加している。

2008年、アメリカに渡りボストンのバークリー音楽大学に入学。2010年、同大学を優秀な成績で卒業後、ニューヨークに活動の場を移す。以来、アリ・ホーニグ (Ari Hoenig)、ビリー・ハート (Billy Hart)、フランシスコ・メラ、ギラッド・ヘクセルマン、マイク・モレノ、ウィル・ヴィンソンといったシーンを代表する音楽家たちと共演を重ね、2018年に初のリーダー作『Roads Diverge』をリリースする。現在は世界のジャズ・シーンを牽引する才能あふれるベーシストとして活躍している。

Gabriel Chakarji ガブリエル・シャカルヒ : piano



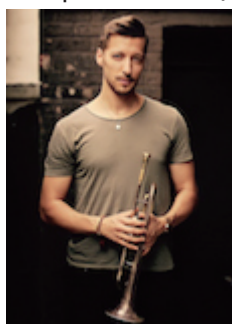
ベネズエラのカラカスで育ち、アフリカ系ベネズエラのフォーク、カリブ海やブラジル音楽、ジャズ、ゴスペル賛美歌など、さまざまな音楽スタイルに触れて育つ。9歳でクラシックピアノを始め、10代でジャズに傾倒。

「Simón Bolívar Big Band」に参加しニューヨークやボストンをツアーする機会に恵まれる。すでにベネズエラでは演奏経験も豊富で20歳で参加したアルバム『Tiempo』はラテン・グラミー賞にノミネートされている。

21歳のときに奨学金を得てニューヨークに移り、ニュースクールで即興演奏を学び活躍の場を広げる。ニューヨークではカーネギーホール、ブルーノート、ディーズクラブなどで演奏しバンドリーダーとして「Vida」と「New Beginning」という2枚のアルバムをリリースして高い評価を受ける。彼の作曲した「Enredadera」は、ニューヨーク市で開催された第20回インディペンデント・ミュージック・アワードで最優秀ジャズ・シングルにノミネートされる。2022年、名誉あるジャズ・ギャラリー・レジデンシー・コミッションと ASCAP ハーブ・アルパート・

ヤング・ジャズ作曲家賞を受賞する。バンドリーダーとしての成功したキャリアに加えて、ガブリエルはディズニーの「エンカント・シングアロングショー」、ジェレミー・ボッシュ、ルイス・エンリケ、アリ・ホーニグ、ルイシート・キンテロ、マンボレジェンドオーケストラ、ディナ・スティーブンスなど、世界中のさまざまなアーティストや企業とコラボレーションし、アフロラテンジャズオーケストラと共にアルバム「ファンダンゴ・アット・ザ・ウォール・イン・ニューヨーク」でグラミー賞を受賞する。彼の作曲と演奏は社会正義と多文化主義への情熱を反映しており、彼のユニークな音楽的アイデンティティを構成する多様なリズム、ハーモニーを体現している。

Philip Dizack フィリップ・ディザック : trumpet



ウィスコンシン州ミルウォーキーで生まれ育たつ。

10才頃から楽器の演奏に興味を持ち最終的にトランペットを選ぶ。家族の中に楽器に興味を持つ者はなく、レコードを聴きながら音楽の勉強をした。最初のアイドルはマイルス・デイビス、その後、ニコラス・ペイトン、リー・モーガン、ルイ・アームストロングと様々なトランペッターの演奏を聴きながらジャズに引き込まれていった。名門ミルウォーキー芸術高校に入学する頃にはトランペッターになる事を決めていた。高校を卒業した年にジャスティン・ディチョッチョの指揮の下、スタン・ゲッツ / クリフォード・ブラウンの音楽をフィーチャーしたミュージック・オールスターズのメンバーとしてアメリカ、カナダ他世界各地へのツアーに参加する。2003年、ニューヨークの「マンハッタン音楽学校」に入学しジャズトランペット演奏の学士号を取得する。2004年の国際トランペットギルドジャズコンペティションで3位、2005年の全米トランペットコンペティションで1位、2005年、非常に名誉あるカーマイン・カルソ国際ソロジャズコンペティションで優勝する。

同年、フレッシュサウンドレコードでデビューアルバム「Beyond a Dream」をレコーディングし、リリースする。

このレコーディングでは、年長者でありながら若き獅子であるグレッグ・ターディと共に、若い同世代のミュージシャンを参加させている。

その後、一時的にグレッグ・ターディのバンドに加わり、ニューヨークの有名なジャズクラブで演奏する。同年12月に自己のバンドを率いてスペインのバルセロナジャズフェスティバルに出演する。以降、ロイ・ヘインズ、ジェイソン・モラン、ロバート・グラスパー、ハーヴィー S、テレル・スタッフォード、イングリッド・ジェンセン、ウィリー・ジョーンズ III、ブライアン・リンチ、ショーン・コニー、ジョン・ライリー、マーカス・ギルモア、アーロン・ゴールドバーグなど、多くのミュージシャンと共演し、レコーディングを行って。